

伝統的な宗教建築が評価 日本基督教団一関教会

3月16日、国の文化審議会は、田村町の「日本基督教団一関教会」を国の登録有形文化財とするよう文部科学相に答申しました。同教会は昭和4年、宮古教会建てられました。建築面積171平方メートルで、木造平屋建て、屋根頂部には十字架が置かれています。小屋組みは、ハンマービーム構架やタイバーで構成。外壁は真っ白に塗られた下見板張りで、内側は板張りの天井と腰板を除いていた部分がしつくいで塗られています。

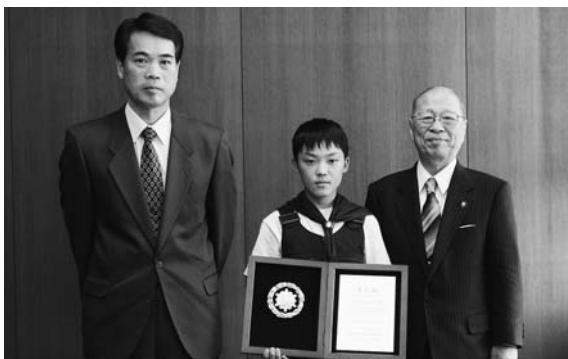
同教会は昭和4年、宮古教会の羽生義三郎牧師の設計により建てられました。建築面積171平方メートルで、木造平屋建て、屋根は切り妻の鉄板ぶき。礼拝堂の正面右側に尖塔が建ち、尖塔の屋根頂部には十字架が置かれています。小屋組みは、ハンマービーム構架やタイバーで構成。外壁は真っ白に塗られた下見板張りで、内側は板張りの天井と腰板を除いていた部分がしつくいで塗られています。

件の登録有形文化財があります。



三角形アーチ意匠で飾られた日本基督教団一関教会

田中少年消防クラブ



菊池幹事長(左)とクラブ員の足利君(中)

大東地域曾慶の田中地区を中心に活動している田中少年消防クラブ(菊池聰幹事長・団員23人)は3月26日、東京で行われた「少年少女消防クラブフレンドシップ2007」の席上で、消防庁長官表彰を受けました。地元消防団や地域住民と連携した毎月1回の火災予防の呼びかけや、火災予防ポスターコンクールへの応募など活発な活動が評価されたものです。

クラブ員の足利祐介君(曾慶小6年)と菊池幹事長が3月27日、市役所を訪問。「消防車に乗れたのは貴重な体験。東京での表彰式は緊張した」「今後も活動を継続していきたい」と浅井市長に受賞の喜びを述べました。

スポーツ ソフトテニスで全国へ

両ソフトテニス選手10人らが出場を報告
全国小学生ソフトテニス大会に出場する選手や監督らが3月28日、市役所を訪れ、浅井市長に大会での活躍を誓いました。

10人の選手は、一関ソフトテニススポーツ少年団、一関滝沢ソフトテニススポーツ少年団にそれぞれ所属。18年9月、北上市で行われた同大会県予選で上位に入賞し、全国への切符を手にしました。

選手を代表し、日高ダイヤさん(一関小5年)が「今までの練習の成果を出し、優勝できるように頑張ります」と決意を述べると、浅井市長は「岩手の代表であることに誇りを持ち、頑張ってください」と励ました。

川崎村商工会青年部が中小企業庁長官表彰

川崎町唯一の青年団体である川崎村商工会青年部(鈴木宏部長・会員18人)は2月21日、東京で催された全国商工会青年部全国大会の席上で、中小企業庁長官表彰を受賞しました。

同青年部は、商工会主催の夜市や商工まつり、夏まつり花火大会などのイベント協力や売店設営などに積極的に取り組んでいました。また18年度は地場産業を知つてもらおうと子どもたちに部員の企業で職場体験・見学会を催したり、市の地域おこし事業を活用して参加型イベントのスターイベント事業を行うなど、継続事業に加えて新たな取り組みにも積極的に挑戦し、地域の活性化に奮闘している点が高く評価されました。

鈴木部長ら3人は3月13日、市役所を訪れ、受賞を報告しました。浅井市長は「若い人たちが自ら地域を盛り上げように行っている皆さんの活動は地域おこしの模範。これからも頑張ってください」と祝福。鈴木部長は「先輩から受け継いだ、地域のた

めに尽くすという姿勢を後輩に伝え、活動を今後も継続したい」と抱負を述べました。

佐藤正さん(大東町大原)は4月9日、満100歳の誕生日を迎えました。正さんは、明治40年に大東町大原に生まれ、農業に従事しながら子ども6人、孫14人、ひ孫11人に恵まれました。9年前からベッドでの生活が多くなりましたが、現在も家族4人で楽しく暮らしています。毎日欠かさず甘酒とらくがんを食べるといい、100歳を迎えた朝には「すこぶる元気だね」と話していたそうです。

家族らが見守る中、小原地域

自治区長が「これからも元気で長生きしてください」と、祝い状と記念品を手渡しました。



家族らに囲まれて長寿の祝福を受ける佐藤正さん



上 下 国道284号の名物となった自治会のふれあい花壇 坂本助役(右)に受賞を報告した自治会の皆さん

地域を挙げて花壇づくりに取り組んでいる千厩町第13区自治会(千葉喜美雄会長・94世帯)は3月14日、平成18年度地域づくり総務大臣表彰に輝きました。魅力あふれる地域づくりを積極的に推進する団体・個人を表彰する同賞に、地域振興、国際化情報化個人の各部門から27団体・4人が入賞。約800平方メートルの休耕田に40種類・1万本の花が植えられた花壇を地域づくり

千厩町第13区自治会が地域づくり総務大臣表彰

の核とする同自治会は、△長年にわたり子どもから高齢者まで多数のボランティアがかかわっている△花いっぱい運動が地域の景観向上やPRに貢献している△季節野菜の直売による地産地消などのスローフードへの取り組みも発展性があるなどどの点が評価されました。

千葉会長ら4人は3月15日、市役所を訪れ、受賞を報告。坂本助役が「手入れの行き届いた花

壇に通るたびに感動しています。今後も先導的な役をお願いしたい」と祝福しました。

同自治会の花壇づくりは7年に開かれた県花いっぱい大会の来町を花で迎えようと休耕田を借り受け開始。15年に全国花いっぱいコンクール最高賞、18年は市花いっぱいコンクール市長賞を受賞。地域の子どもの姿を描いた花壇が評判を呼び、県内外から多くの客が訪れます。

「すこぶる元気だね」佐藤正さん